# 先人たちの物語 シンリッオルッペ

監修 佐々木 利和

## 千石船持ち豊かな暮らし

きょうは東北地方のアイヌ民族や文化の広がりなどについて、しょうかいします。

東北地方の、山形県や宮城県付近までは、土地の名前にアイヌ語が残っています（左のクイズを見てください）。このあたりまでアイヌ語が使われていた証拠だと考えられます。

青森県の津軽半島や下北半島には、江戸時代にもアイヌ語で暮らす人たちがいたことが分かっています。江戸時代後半には、言葉や暮らし方がすっかりまわりの和人と同じになっている人もいました。

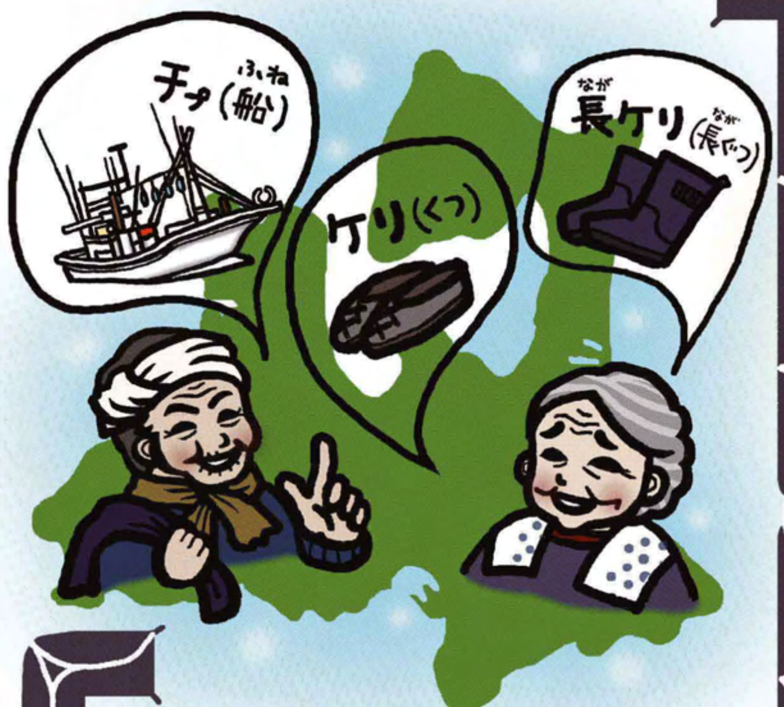
1788年、菅江真澄という旅人が、津軽半島の三厩に来た時のこと。上宇鉄の浦というところにとまりました。よくよく話を聞くと、真澄をとめてくれた村長の四郎三郎や、村の人々は、その土地のアイヌなのでした。このころには和人と同じ髪形にし、ヒゲをそり、女性も入れずみをしていないので、和人と見分けがつかなかったのです。

四郎三郎によれば、津軽のアイヌ民族の中にも、以前からの暮らしを好む人と、新しもの好きの人がいたようです。四郎三郎は宇鉄のクマタカインというアイヌの子孫。ほかにも付近の有力者として、ヘキリバという人の子孫の「治郎兵衛」、カフタインの子孫「又右衛門」、ムサカインの子孫「清八」といった人たちがいました。下北半島にはハツヒランという人の子孫がいました。

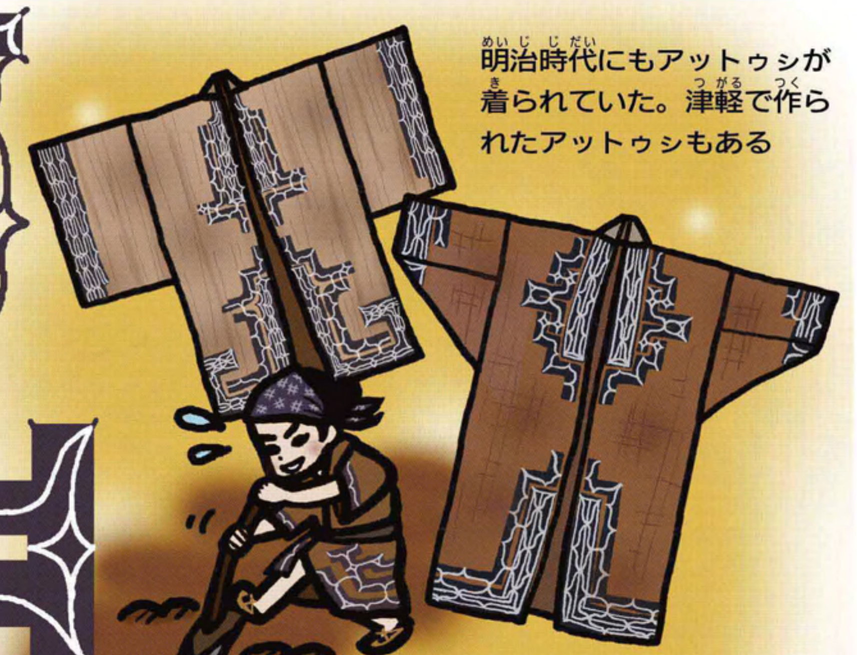
同じ年に津軽を訪れた古川古松軒によると、四郎三郎は千石積みの船を持っていて、津軽の殿様からも仕事を頼まれ、豊かに暮らしていたようです。

また、真澄たちより50年前に津軽を訪れた坂倉源次郎は、先代の四郎三郎に会い、その娘たちは琴と歌でもてなしてくれたといいます。

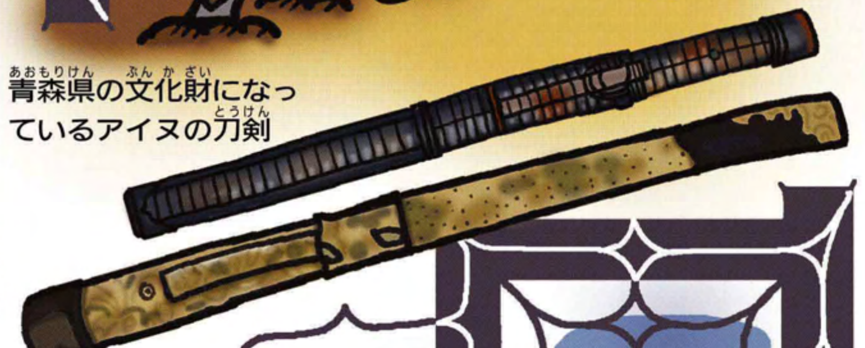
こうした東北地方のアイヌ民族の中には、ヤウンモシㇼ（北海道）などに移り住んだ人もいれば、和人と同じ暮らしをしながら今も東北に暮らしている人もいます。青森県はアイヌの家系に伝わっていた刀を有形文化財に指定。東北地方の博物館には、生活道具が置いてある施設もあります。（敬称略）


チㇷ゚（船）
ケリ（くつ）
長ケリ（長ぐつ）

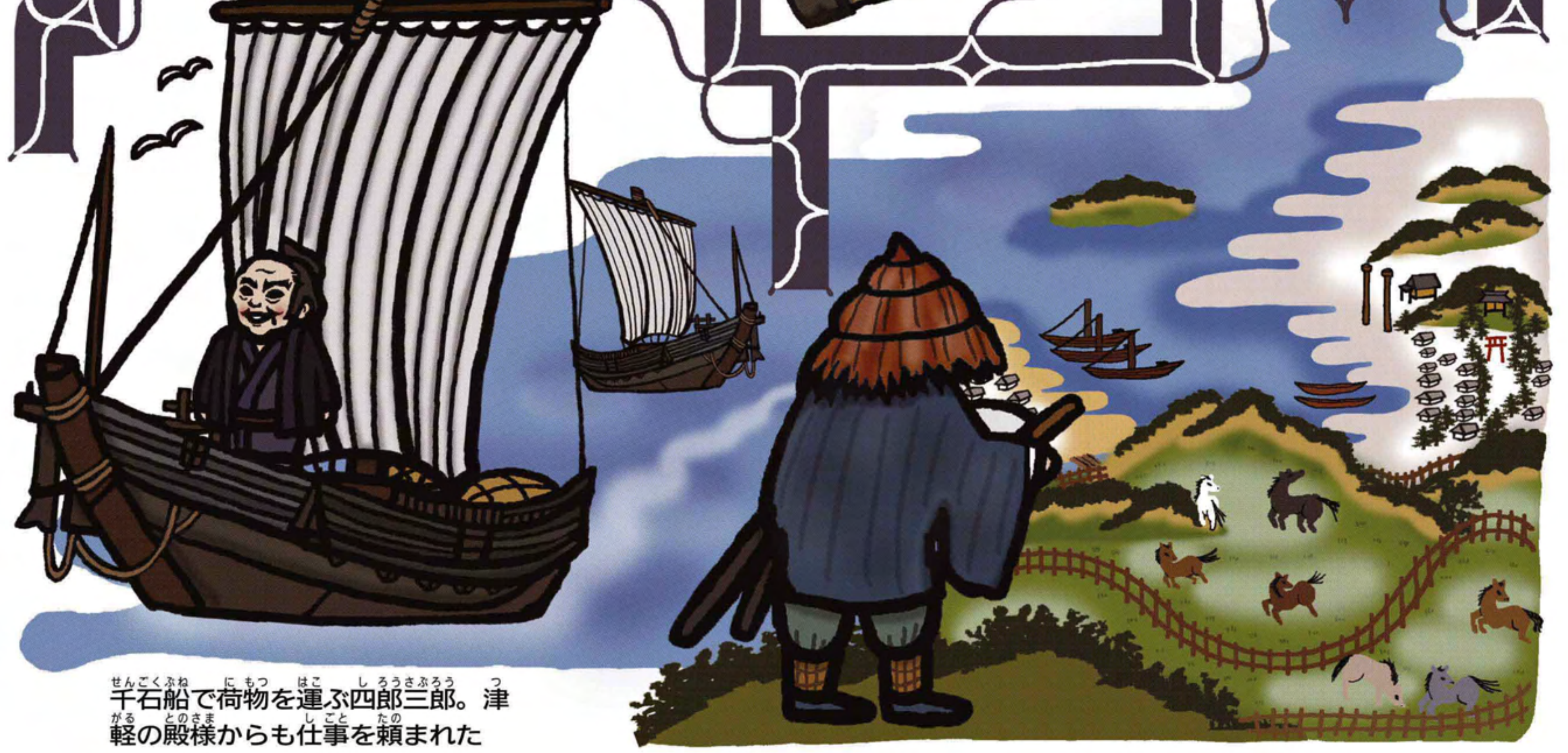
年配の世代には、アイヌ語を聞きおぼえている人もいる（くつの、本来の音はケレ）



明治時代にもアットゥシが着られていた。津軽で作られたアットゥシもある

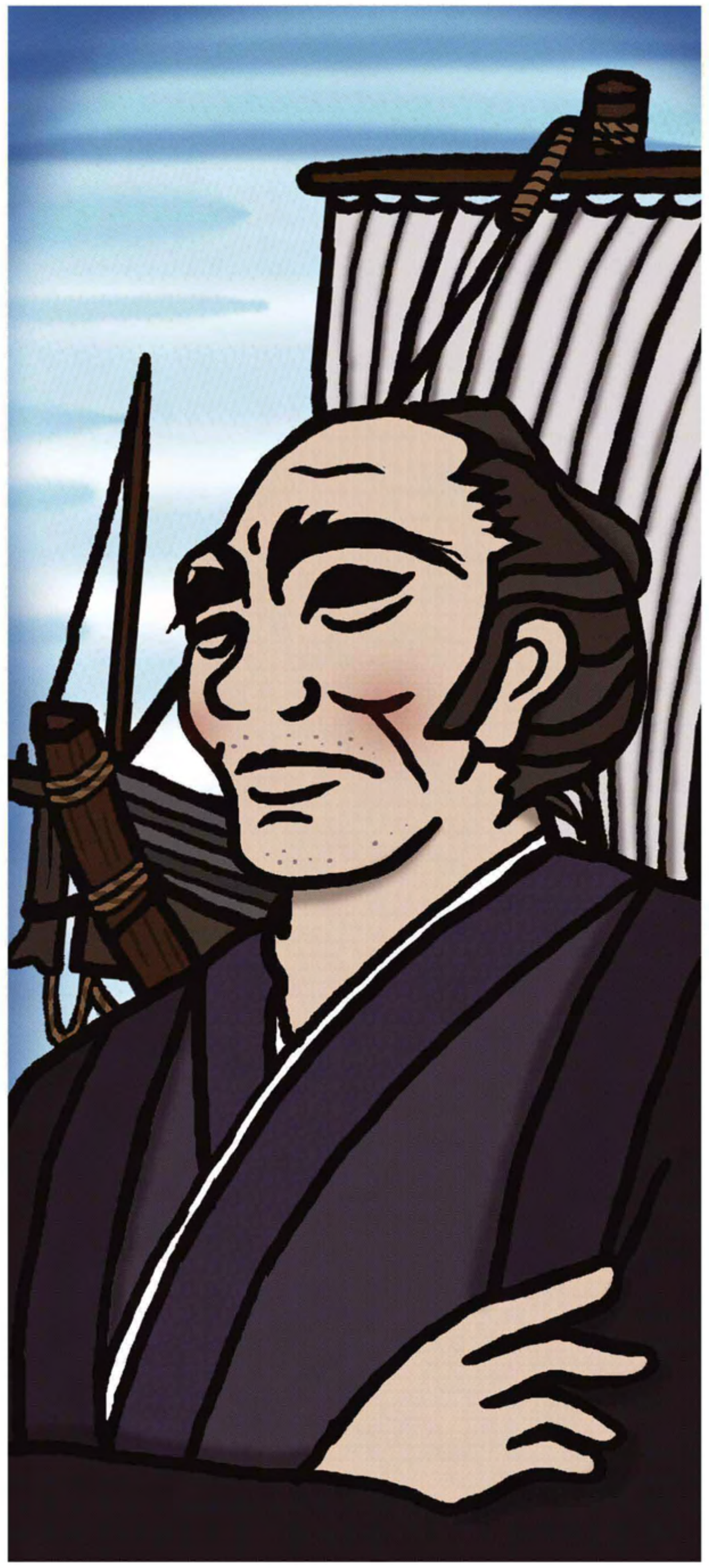


青森県の文化財になっているアイヌの刀剣



千石船で荷物を運ぶ四郎三郎。津軽の殿様からも仕事を頼まれた

## 津軽の村長 四郎三郎（18世紀）



### 狩猟や漁労 藩の領民に

江戸時代の東北アイヌは、1646年ごろには弘前藩と南部藩という二つの藩の領民となっていました。ヤウンモシㇼ（北海道）では、アイヌ民族は領民とはならなかったので、ここは大きなちがいです。

東北アイヌは「狄」と呼ばれ、水田を作ることができない身分とされました。代わりに狩猟や漁労、焼畑農業をし、船を操るのが得意なので、松前藩までの飛脚役（手紙や荷物を運ぶ仕事）を任されていました。

東北アイヌにもヤウンモシㇼと同じ文化が多く見られます。弘前藩の和人が北海道へ行く時には、津軽アイヌが通訳をしました。狩りに毒矢を使い、子グマを育ててイヨマンテ（クマの霊送り）をし、樹皮のせんいから衣服（アットゥシ）を作ったことも知られています。

弘前藩も盛岡藩も、18世紀中ごろには「狄」の身分をなくし、和人化を進めました。東北アイヌの姿は見えにくくなっていきますが、民族意識は残り、今でもアイヌ語名の先祖まで家系をたどれる人がいます。

一方、18世紀後半からはヤウンモシㇼへ出かせぎに行く人々が増え、アイヌ文様のあるアットゥシや山丹錦（中国製の絹織物）などいろいろなものを持ち帰りました。アットゥシはじょうぶで動きやすく、喜ばれました。和風化を進めていた盛岡藩は1809年から３度もアットゥシ禁止令を出しましたが、家々に残されたアットゥシは戦後まで受けつがれました。

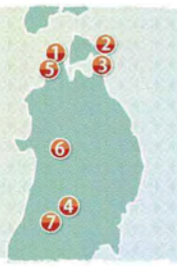
---

# ミンタラ

アイヌ語で「広場」の意味

文 北原 次郎太　絵 小笠原 小夜

## クイズ



東北地方にも、道内と同じく、アイヌ語が基になった地名がたくさんあるよ。いくつ読めるかな。

①青森県**今別**町
②青森県東通村**尻労**
③青森県東通村**白糠**
④宮城県大崎市**保呂内**
⑤青森県五所川原市**春日内**
⑥秋田県仙北市西木町**浦子内**
⑦山形県尾花沢市**猿羽根**（猿羽内とも）

＝答えは紙面の下に

## ヘカチ マッネカチ

### 将来の夢は看護師

ななちゃん（小6）＝釧路市

―イソロレ、こんにちは。おどりやトンコリ（弦楽器）が上手ですね。

おばあちゃんが教えてくれたんです。妹やいとこたちとやってます。

―どんなおどりをおそわりましたか。

フッタレチュイ（長い髪をふるおどり）とか、ロホンナロホン（長いぼうを落とさないようにやりとりするおどり）。トンコリではトーキトランラン（白鳥が湖に降りる様子の曲）、スマリプーコサン（キツネが山からおりてくる様子の曲）とか、あといくつか。

―ななさんたちのおどりは元気があって、とても楽しいですね。将来の夢はどんなことでしょうか。

看護師です。今年決めたんです。いとこが「看護師になれば」と言ってくれたので。

―好きな授業は？

算数が好きです。楽しい。体育も好き。最近はバスケットボールをしました。あとは休み時間に友達とトランプするのが好き。

―家ではどんなことをしているんですか。

携帯でラインをやるのが楽しい。見るだけでメッセージを送ったりはしないけど。音楽も好きです。自分も4年生からヒップホップダンスを習っていて、韓国のBOOMBAYAHという女の子のグループが好きです。ダンスがかっこいい。

―ありがとうございました。イヤイライケレ。

▲「ヘカチ マッネカチ」は「男の子 女の子」の意味です。若いアイヌの人にインタビューするコーナーです。

### クイズの答え

①いまべつ（イマペッ）　イ（それ）・マ（を焼く）・ペッ（川）。「それ」はここでは魚のこと。魚をさっと焼いてから干し、保存食にすることをイマという。

②しつかり（シットゥカリ）　シㇼ（山）・トゥカリ（手前）　北海道の静狩も同じ語源。

③しらぬか（シラㇻカ）　シラㇻ（平磯）・カ（上）

④ほろない（ポロナイ）　ポロ（大きい）・ナイ（沢）　青森県の母衣内、北海道の幌内も同じ語源。

⑤はるしない・現在は、はるひないと読むようです。ハル（食料）・ウシ（ある）・ナイ（沢）　北海道の張碓も同じ語源。

⑥うらしない　ウライ（やな）・ウシ（ある）・ナイ（沢）

⑦さばね（さるはない）　サㇻ（カヤの生えた湿地）・パ（上手）・ナイ（沢）　青森県の佐羽内、秋田県の狙半内、北海道の去場も同じ語源。

地名の意味は「北海道の地名」「アイヌ語地名の研究」（山田秀三著、草風館）を参考にしています。